

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 (仮称)松井アーキメタル鋳造工場新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.30</b>			<b>1.9</b>
<b>1 音環境</b>						<b>1.0</b>	<b>0.15</b>			<b>1.0</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>1.0</b>	<b>0.40</b>	<b>3.0</b>		
1.2 遮音						<b>1.0</b>	<b>0.40</b>			
1 閉口部遮音性能						<b>1.0</b>	<b>1.00</b>	<b>3.0</b>		
2 界壁遮音性能						-	-	<b>3.0</b>		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>		
1.3 吸音						<b>1.0</b>	<b>0.20</b>	<b>3.0</b>		
<b>2 温熱環境</b>						<b>1.0</b>	<b>0.35</b>			<b>1.0</b>
2.1 室温制御						<b>1.0</b>	<b>0.50</b>			
1 室温						<b>1.0</b>	<b>0.38</b>	<b>3.0</b>		
2 外皮性能						<b>1.0</b>	<b>0.25</b>	<b>3.0</b>		
3 ゾーン別制御性						<b>1.0</b>	<b>0.38</b>			
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	<b>0.20</b>	<b>3.0</b>		
2.3 空調方式						<b>1.0</b>	<b>0.30</b>	<b>3.0</b>		
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.9</b>	<b>0.25</b>			<b>2.9</b>
3.1 昼光利用						<b>3.8</b>	<b>0.30</b>			
1 昼光率						<b>3.0</b>	<b>0.60</b>	<b>3.0</b>		
2 方位別開口										
3 昼光利用設備		ハイサイドライトを設置、外壁の開口部にポリカーボネート板を採用				<b>5.0</b>	<b>0.40</b>	<b>3.0</b>		
3.2 グレア対策						<b>2.0</b>	<b>0.30</b>			
1 昼光制御						<b>2.0</b>	<b>1.00</b>	<b>3.0</b>		
3.3 照度						<b>3.0</b>	<b>0.15</b>	<b>3.0</b>		
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	<b>0.25</b>	<b>3.0</b>		
<b>4 空気環境</b>						<b>2.8</b>	<b>0.25</b>			<b>2.8</b>
4.1 発生源対策						<b>3.0</b>	<b>0.50</b>			
1 化学汚染物質						<b>3.0</b>	<b>1.00</b>	<b>3.0</b>		
4.2 換気						<b>3.0</b>	<b>0.30</b>			
1 換気量						<b>3.0</b>	<b>0.33</b>	<b>3.0</b>		
2 自然換気性能						<b>3.0</b>	<b>0.33</b>	<b>3.0</b>		
3 取り入れ外気への配慮						<b>3.0</b>	<b>0.33</b>	<b>3.0</b>		
4.3 運用管理						<b>2.0</b>	<b>0.20</b>			
1 CO <sub>2</sub> の監視						<b>1.0</b>	<b>0.50</b>			
2 喫煙の制御						<b>3.0</b>	<b>0.50</b>			
<b>Q2 サービス性能</b>							<b>0.30</b>			<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.0</b>	<b>0.40</b>			<b>3.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	<b>0.40</b>			
1 広さ・収納性		1人当たりのスペースとしてゆとりある面積を確保				<b>5.0</b>	<b>0.50</b>	<b>3.0</b>		
2 高度情報通信設備対応						-	-	<b>3.0</b>		
3 バリアフリー計画						<b>1.0</b>	<b>0.50</b>			
1.2 心理性・快適性						<b>3.6</b>	<b>0.30</b>			
1 広さ感・景観		最小天井高4.6mを確保、シャッターは常時開放し屋外との繋がりを				<b>5.0</b>	<b>0.33</b>	<b>3.0</b>		
2 リフレッシュスペース						<b>3.0</b>	<b>0.33</b>			
3 内装計画						<b>3.0</b>	<b>0.33</b>			
1.3 維持管理						<b>2.5</b>	<b>0.30</b>			
1 維持管理に配慮した設計						<b>3.0</b>	<b>0.50</b>			
2 維持管理用機能の確保						<b>2.0</b>	<b>0.50</b>			
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>2.7</b>	<b>0.30</b>			<b>2.7</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	<b>0.50</b>			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						<b>3.0</b>	<b>0.80</b>			
2 免震・制震・制振性能						<b>3.0</b>	<b>0.20</b>			
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.0</b>	<b>0.30</b>			
1 躯体材料の耐用年数						<b>3.0</b>	<b>0.20</b>			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						<b>3.0</b>	<b>0.20</b>			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						<b>3.0</b>	<b>0.10</b>			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						<b>3.0</b>	<b>0.10</b>			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						<b>3.0</b>	<b>0.20</b>			
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>3.0</b>	<b>0.20</b>			
2.4 信頼性						<b>1.6</b>	<b>0.20</b>			
1 空調・換気設備						<b>1.0</b>	<b>0.20</b>			
2 給排水・衛生設備						<b>2.0</b>	<b>0.20</b>			
3 電気設備						<b>1.0</b>	<b>0.20</b>			
4 機械・配管支持方法						<b>3.0</b>	<b>0.20</b>			
5 通信・情報設備						<b>1.0</b>	<b>0.20</b>			

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		最小4.255m	5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.09	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			2.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		機械電源用のピットを計画	5.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用		ハイサイドライトを計画、ハイサイドライトのサッシは開閉式とし自然	4.0	0.13	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0である	5.0	0.63	-	-	5.0
4 効率的運用			2.0	0.25	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			2.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			2.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価			3.0	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		外壁・壁の仕上材は全て躯体又は鉄骨下地にビス止めで行う	4.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.4	0.20	-	-	4.4
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			5.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		断熱材はグラスウールを採用	5.0	1.00	-	-	
3 冷媒			-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		全館空調を行わないなど消費エネルギーが少ない計画としている	4.9	0.33	-	-	4.9
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用しない	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		十分な一般駐車場及びトラック用駐車場、荷捌きスペースを確保	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	